

2学期のごあいさつ

港区立赤坂小学校
校長 齋藤 恵

これは、本校の校長室に額縁に入れて飾られてある『校訓』です。

私が赤坂小学校に着任する以前から掲示されていたものですが、これを見るたびに、私は一人の人間としての行動、言動、立居振舞について立ち止まって考えずにはられません。「これは、今の自分に当てはまるな」と反省することもしばしばです。気持ちを引き締めて2学期をスタートするために、また、自分自身に改めて言い聞かせるつもりでご紹介します。

- *叱られる人は伸びる時であり 叱る人は反省の時である
- *子供に我儘をさせ乍ら 愛情と勘違いしていることが多い
- *自己中心の心は争い事を生み 相手を尊ぶ心は平和を生む
- *不足不満の心が出てくるのは 感謝の心が乏しいからである
- *外見をよく見せようとするほど 内質は空虚になり易い
- *決意した事を実行しないと 心に負担が残っていく
- *今の困難を逃げていると 後でする苦労が大きい
- *機会は努力する者を訪れ 怠ける者からは去っていく
- *反省とは悔やむことではない 前進するための土台である

(東京都港区立赤坂小学校教職員 校訓) ※現在「東京都」はつけません

令和2年(2020年)にはよいよ新学習指導要領が全面実施となります。学校教育では、これからの新しい時代に必要となる資質・能力(知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力、人間性)を育てていくことが私たち教員の使命です。子供たちが「何を学ぶか」「どのように学ぶか」そしてその結果「何ができるようになるか」という視点に立ち、授業改善を行っていかねばなりません。

新学習指導要領を実施するための諸条件の整備の一つとして、教員の資質・能力の向上が挙げられています。教員は創意工夫した教育を行い、子供たちの学習に対する内発性を引き出すことができる授業力をつけていく必要があります。

よりよい授業を行うには、一人一人が教員としての熱意と使命感をもつと同時に、自己研鑽に励み、自分自身を磨いていかなければならないと思うのです。なぜなら、私たちは子供たちを指導する立場にありますが、同時に子供たちにとっての身近な大人のモデルであり、見本であるからです。

子供たちに夢を与え、豊かな心を育む立場である教員として、言動、行動、立居振舞はもちろんですが、一社会人として恥ずかしくない教養を身に付けた、魅力ある人でありたいと思います。そして、常に自分を振り返り、謙虚に、誠実に物事に取り組む姿を子供たちに見せていきたいと思います。

2学期は芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋・・・様々な学びの季節です。子供たちの成長とともに、私たち教員も伸びていきたいと思います。どうか、ご支援、ご協力の程、お願い申し上げます。